

山中湖村人口ビジョン及び山中湖村まち・ひと・しごと創生総合戦略

概要版

山中湖村人口ビジョン及び山中湖村まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の背景

国は人口減少の克服と成長力の確保を目指した「まち・ひと・しごと創生法」を2014年11月28日に制定しました。この法律に基づき、日本全体の人口の将来展望を示す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（以下、国の長期ビジョン）と、2015年度を初年度とする5か年の戦略を示した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、国の総合戦略）を2014年12月に策定しました。

地方公共団体においても、2015年度中に「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定が求められていることから、本村では村長を本部長とした「山中湖村まち・ひと・しごと総合戦略策定本部」を2015年6月に設置しました。策定にあたっては、住民の皆様をはじめ、関係行政機関・教育機関・金融機関・労働団体・メディア（産官学金労官）等で構成される有識者会議を開催し、関係者の皆様からの幅広い知見を反映させました。

対象期間は、国の長期ビジョン及び国の総合戦略を勘案し、「山中湖村人口ビジョン」は2060年までとし、「山中湖村まち・ひと・しごと創生総合戦略」は2019年度までとします。

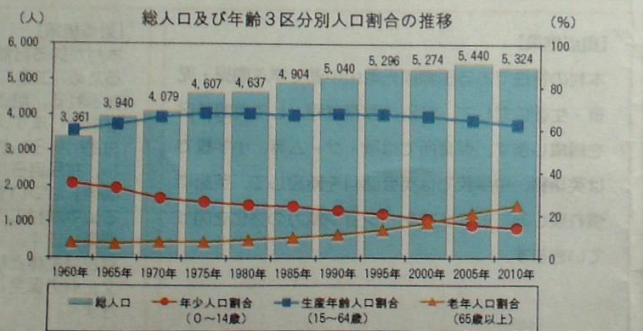
山中湖村人口ビジョン

【人口の現状】

本村の総人口は、2005年をピークに減少しています。同時に少子高齢化も進行しており、2010年は人口の約4人に1人が65歳以上の高齢者となっています。

出生数は減少傾向にあり、2010年には死亡数が出生数を上回る自然減となりました。本村の直近の合計特殊出生率は1.50（2008～2012年）となっています。

この人口減少と少子高齢化の背景には、若者の転出超過があると考えられます。本村では2000年以降、20～39歳の若者の転出超過が続いており、これが出生数の減少や老年人口割合の増加を引き起こしていると考えられます。



資料：「国勢調査」「住民基本台帳人口移動報告」（総務省）に基づき、まち・ひと・しごと創生本部作成

【現状と課題】

本村の現状と課題を把握するため、村民および村内事業所を対象にしたアンケート調査を実施しました。主な結果は以下の通りです。

結婚	未婚者が独身でいる理由は「適当な相手にめぐり会わないから」（38.9%）が最も多くなっています。
出産	理想の子ども数の平均（2.54人）よりも現実的な子ども数の平均（2.49人）が下回っており、理想の子ども数を持つ妨げとなる理由は「経済的負担が大きいから」（71.6%）が最も多くなっています。
育児	充実させるべき少子化対策は、「教育費支援の充実」（44.0%）、「子育てと仕事両立できる職場環境整備」（38.1%）、「保育サービスの充実」（36.6%）が多くなっています。
就職	高校生以上の学生は、進学先を卒業後「（山中湖村で就職したいと）思わない」（64.3%）が6割を超え、その理由として「働く場が少ないから」（77.8%）が最も多くなっています。
観光	村内観光事業所が抱える経営上の問題点は、「施設の狭隘・老朽化」（50.0%）、「新規客の開拓」（44.1%）が多くなっています。

【基本的視点】

出生数の増加	若者の就職・結婚・出産・子育ての希望をかなえるための生活環境基盤の整備
転入者数の増加	あらゆる世代の定住促進（空き家の活用など）
交流人口の増加	本村の基幹産業である観光業の振興

【人口の将来展望】

人口

2060年までに総人口3,500人を維持します。

合計特殊出生率

2030年までに本村の希望出生率*1.82まで上昇させます。

社会増減

若者（20～39歳）を中心とした転入促進を図ります。

山中湖村の希望出生率*算出方法・・・（有配偶者割合×既婚者の予定子ども数+未婚者割合×未婚者のうち結婚を希望する割合×未婚者の理想子ども数）×離死別等の影響



山中湖村まち・ひと・しごと創生総合戦略

基本目標1 安定した雇用を創出する

- ・地域の経済活力を維持し、若年層の雇用確保を図るため、企業移転も含めた企業誘致や企業支援に取り組みます。
- ・シルバー人材センターの周知を徹底し、退職後もいきいきと働ける機会を提供します。
- ・村内空き家の実態調査及び意向調査を実施し、現状を把握することで、施設の有効な活用について検討していく体制づくりを行います。

2019年度の数値目標

- ・本村の従業者数：3,100人

【重点施策】

観光立村の確かな産業化を目指し、村の魅力と質の向上を図り、観光による交流人口の増加と多様な事業展開により、雇用の増加を創出します。

【主な具体的事業】

- ・空き家バンク事業
- ・企業誘致推進事業
- ・オールやまなし 11+1 大学と地域の協働による未来創生の推進事業

(全6事業)

基本目標2 新しいひとの流れをつくる

- ・本村の自然や文化、歴史など本村の魅力である「宝」をICT等を活用して、全国に向けて情報発信を行います。
- ・さらなる観光振興に向け、訪日外国人旅行者の受け入れに向けた基盤整備を行います。
- ・入込客数の多い夏季シーズンだけでなく、通年で楽しめる観光ルートの形成や、イベント開催等により、観光客の誘客を図ります。

2019年度の数値目標

- ・本村の年間観光入込客数：100万人

【重点施策】

- 観光地として、持続可能性の形成に向け、次の10項目を念頭に構造改革を進め、地域活性化を図ります。
1. 地域資源の掘り起し・磨き上げ
 2. 立地と資源を再評価し、ポテンシャルとターゲットの明確化
 3. 将来ビジョンを住民と協働で策定し、共有
 4. 官民の施設をニーズに合わせ、リニューアル
 5. 観光統計の充実を図り、マーケティング機能を強化
 6. ICTやメディアの活用により、個人客への情報提供手法を確立
 7. 地域資源の活用、ガイドによる付加価値付け、商品化に地域で取り組む
 8. 地域住民の観光意識や変革を図り、まちづくりへの積極参加
 9. 観光推進組織体制を整え、官民の役割分担を明確化
 10. 単独の観光地だけでなく広域的連携・補完関係を確立

【主な具体的事業】

- ・インバウンド導入サポート事業
- ・日本版DMOの推進事業
- ・山中湖村観光実態把握基礎調査
- ・山中湖村婚活支援イベントの運営事業

(全26事業)

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- ・結婚・出産・子育てのあらゆる段階においても、若者の希望にかなった選択ができるよう、環境整備及び経済的支援を行います。
- ・結婚においては、相談窓口を開設し、本村の特色を活かした観光施設やイベント等を通じた出会いの機会の提供を図ります。
- ・現在、主に共働き世帯の支援として、放課後に行っている放課後児童クラブ（くじらっこ）について、更なる受け入れ体制の充実や、従来のクラブ活動に加え、復習・予習等を含めた、児童・生徒の学習支援（くじらっこ塾）を行います。

2019年度の数値目標

- ・本村の合計特殊出生率：1.60 (2013~2017年)
- ・本村の子育て環境や支援の満足度（1~5点）：
就学前4.0点 小学生4.0点 (2018年度)
- ・本村の婚姻件数：5年間の累計で160件

【重点施策】

本村の特性である国際観光地山中湖で学ぶ園児・児童・生徒に対して、特別的教育課程として英語特区を編成します。保育所では歌・ゲーム等、小学校では英語科、中学校では英会話科を新設して、英語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の強化を図っていきます。

【主な具体的事業】

- ・結婚相談所運営事業
- ・すこやか赤ちゃん出産等祝い金事業
- ・放課後子ども学習支援事業（くじらっこ塾）
- ・山中湖村英語教育推進事業（英語特区）

(全17事業)

基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

- ・富士山噴火等の自然災害に備えた防災計画を策定し、防災行政無線整備の充実や備蓄食糧の確保など、緊急時においても村民の安全確保に努めます。
- ・村内の不法投棄物の撤去やごみの排出抑制と資源の再使用、再資源化により、本村の美しい景観保護に努めます。
- ・防犯灯の設置や村の玄関口である交差点の整備を行い、安全で住みやすいまちづくりを推進します。
- ・移住、定住化の促進を図るため、移住者に対して新築又は住宅購入に際して、地元金融機関と連携し、補助金交付等について検討していきます。

2019年度の数値目標

- ・村外からの転入者数：
5年間の累計で1,400人以上
- ・村外への転出者数：
5年間の累計で1,300人未満

【重点施策】

本村が誇る自然・歴史・文化などを次世代へ継承するため、エコミュージアムの考え方を取り入れ、「夢あふれる、明るい、豊かな山中湖村の実現」を基本理念とします。
村民の暮らしや生活からあふれてくる魅力を掘り起し、村民自ら「山中湖村ならではの暮らしの魅力＝価値」について、きちんと向き合い、考え、議論する山中湖村エコミュージアムの形成を支える基盤を整備します。
村民が主体となり、地域資源の発掘や、人材育成、文化財の保全、村内の施設等の有効活用を進めていきます。

【主な具体的事業】

- ・富士山噴火避難計画策定事業
- ・定住化促進新築等補助金事業
- ・山中湖村エコミュージアム形成事業（多自然居住地域の創造）
- ・3交差点周辺整備事業

(全25事業)